新潟大学附属図書館旭町分館新築の概要について

Completion of a New Library: Asahimachi Branch of the Niigata University Library

味 方 興 三*

新潟大学附属図書館旭町分館

Mikata, K.: Completion of a New Library: Asahimachi Branch of the Niigata University Library, *Igaku Toshokan* 29(4): 324-329, 1982.

Niigata University Asahimachi Library (health sciences) was completed in March 1982. The three-story building is 2,741 m² in total area and includes a general reading room, a reading room for the teaching staff, a rare-book room, a special collection room, an audiovisual room, a meeting room, stacks, a librarians' work room, and others. Because of heavy snow conditions in the winter season, the new library is equipped with a special device for melting the snow and for prevention of slipping. Air-conditioning facilities are installed in all the rooms. On this occasion, a large number of books and journals in the various departments were collected in the library. Those developments and comfort resulted in a good number of readers coming to the library. The number recorded during August 1982 was an increase of eight times in comparison with the same period of the previous year. In the future, computerization of the library work and centralized control of literature resources in all departments of the Asahimachi campus are proposed.

I. 新館建築までの経過

新潟大学は、新潟市内に二つのキャンパスを持っている。一つは五十嵐地区で、大学本部、人文、法、経済、教育、理、工、農の各学部、教養部、そして中央図書館等が集中している。もう一つが旭町地区で、医、歯の2学部、両附属病院、脳研究所及び医療技術短期大学部、これらを奉仕対象とした複合分館である新潟大学附属図書館旭町分館等で団地を構成している。

旭町分館の前身は、遠く明治12年7月設立の新潟医学校図書室に源を発し、新潟医学専門学校図書館（明治43年）、新潟医科大学附属図書館（大正11年）と移り変わり、昭和24年国立学校設置法施行により新潟大学が設置されるに伴い、新潟大学附属図書館医学部分館と改まった。昭和40年に歯学部が、42年に脳研究所が新設され、いずれの図書業務も医学部分館が担当することになったが、昭和46年4月、複合分館であること

を明確にするため、所在地の町名をとって「旭町分館」と改称したのである。

建物は、昭和4年から5年にかけて建築された新潟医科大学附属図書館の、鉄筋コンクリート造2階建て（書庫は3階建て）延約640m²を、半世紀を超えて使用してきた。自前の施設を持たなかった附属図書館本館は、昭和47年、五十嵐地区に新装成った中央図書館へ引越すまでの23年間、医学部分館に同居していた。

この間、前記の如く学部、研究所、さらに49年に医療技術短期大学部が設置されるなどによって、業務量、蔵書数が激増し、39年に木造事務棟を建て増して、旧事務室を書庫に転用するなど手を加えたものの焼け石に水、蔵書は書架を埋め尽し、床に溢れるまでの状態であった。

昭和47年、中央図書館が五十嵐地区へ分離した直後に示された、旭町キャンパス計画施設配置図には、旭町分館は食堂を併設し、昭和49年度概算要求予定と描かれていた。翌48年1月の旭町分館運営委員会で、当時の分館長が新築計画推進を提唱されてから、建設位置、新館の機能などが毎回の如く運営委員会の議にの

* Kozo MIKATA: Niigata University, Asahimachi Library, 1-754, Asahimachi-dori, Niigata-shi, 951 Japan
(昭和57年10月29日 受理)

ばった。後任代々の分館長も、蔵書の置き場確保と業務改善のために新築を強く訴えられた。

しかし、五十嵐地区への統合に伴う校舎建築、旭町地区の病棟、共通施設建築など緊急な大型工事が相次いだため、分館新築は繰り延べを余儀なくされた。

昭和54年9月、旭町分館は、これも老朽化のため改築、機器更新を迫られていた旭町地区全般の電話交換室を併設し、昭和56年工事予定と発表された。48年以來、分館独自の施設として検討を重ねてきた運営委員会は、交換室併設から生ずる問題点を種々検討したが、分館の早期建設のためにはやむを得ずとして了承した。

II. 建築基本構想から着工へ

昭和55年2月の運営委員会で、建築基本構想がまとめられた。

- (1) 1階は書庫を中心とし、利用者に直接関係のない管理部門を配置する。電話交換室を併設するが、図書館部分と完全に区分し、管理上も明確に切り離す。
- (2) 主階は2階とし、閲覧室、カウンターに近接して事務室、複写室を置く。
- (3) 閲覧室は一般閲覧室（学生図書、参考図書約1万冊を配架し、自由接架式とする。）、雑誌閲覧室（研究用雑誌、二次資料を配架する。）に分ける。
- (4) 新着展示後の雑誌は、雑誌閲覧室隣（に計画した）の雑誌庫に移し、数年経過したもの及び利用度の低下したものから1階又は3階の書庫に移す。
- (5) 3階も書庫が主で、会議室、研修室、文書庫等を配置する。
- (6) 増築スペースを確保する。
- (7) 時間外開館時の冷暖房も可能な設備を考慮する。

旭町地区の総合的施設配置計画にもとづき、新館建設位置は、旧館から南へ約100m弱、医学部研究棟と附属病院病棟の間を東西に直線で走るキャンパス中央道路に面した所に決まった。動物実験施設、中央機械室、放射性同位元素共同利用施設に囲まれたキャンパス隅の旧位置より、環境は格段に良くなった。しかし、周辺地下に光熱水・通信用の共同溝が敷設されているため、増築は南側へ1スパン（6m）しか取れないという、将来大きな問題となりそうな欠点がある。

ともあれ、昭和56年7月16日に着工し、翌57年3

月23日、待望の新館が竣工した。

III. 間取りと機能

実施設計において、基本構想のほとんどは採り入れられた。構想の4に計画した雑誌庫が組み込めなかったくらいである。

新館は、1階と3階の書庫がメインフロアの2階をはさむサンドイッチ型である。

1階の書庫は保存書庫の役割で、341㎡の全面に集密書架を計画したが、予算の関係上、今は1/3弱、電動複式6連7段の9台連結を2基しか設けていない。収容可能冊数は約3万7千冊である。計画が実現すれば約9万4千冊増となる。

前記のとおり、旧館の書庫は図書が床に溢れる状態だったが、これは分館に限ったことでなく、各講座の図書室もオーバーヒートしていた。新館が出来たら引き取りますという約束で、図書返納が相次いでいる。集密書架、第2書庫は早くもほぼ満杯となった。当初の書架設備が不十分だったためであるが、竣工したばかりで早くも書架増設が望まれるという、厳しい現実である。

3階は、雑誌書庫で、2階閲覧室と共に、学生を含む自由接架とした。旧館が閉架式で、利用者から請求の都度、職員が書庫まで走っていたのに比べ、大きな改善である。ここの収容可能冊数は約7万冊である。

主階を2階にした理由は、外部からの、特に自動車の騒音を少しでも減らしたいことである。学生等利用者は正面階段からここの玄関に導かれる。この階段には雪国独特というべき装置が施されている。荒れる日本海を指呼の間にする当キャンパスは、冬季激しい季節風、寒冷にさいなまれる。覆いのない正面階段から出入りするユーザーが滑り、ころぶのを防止するため、階段床下に融雪、凍結防止用のロードヒーティング装置が設けられているのである。踊場に埋められた雪・水分検知器があらかじめセットした温度を検知するとスイッチが入り、床下のヒーターが熱せられ、雪を溶かし、凍結を防ぐのである。

玄関に入ると直前に新聞閲覧室を兼ねたロッカー室があり、コインロッカーを設けている。ブックディテクション・システムは、予算の制約から見送らざるを得なかった。

閲覧室に入るとすぐカウンターで、背部のガラス窓

を境に事務室がある。出納手が一時不在でも、窓越しに閲覧室への出入りはチェックできる。旧館のカウンターが学生用と教官用の2か所で、かつ事務室から遠く離れていたのに比べ、大きな省力化となった。

カウンターの正面に6 m四方の新刊雑誌コーナーがある。今はここに旭町地区の共同購入雑誌160余誌を展示しているが、集中管理、共同利用促進を目指し、講座の協力を得て、来年度は約20誌増えることになった。以後逐次拡充整備する方針である。又ここは3階に設けた光庭の真下で、そこに設備した明り取り用ドームから自然光が注ぎ、館内一の読書環境となっている。

雑誌コーナーに続く教官閲覧室の一角に、コンテンツ誌と表示された書架がある。分館及び各講座購入雑誌の共同利用をはかるため、コンテンツシート・サービスを実施しているが、コンテンツシート・コピーを配布した後、当該誌を1週間ここに展示する。コンテンツにより見出した文献はこの期間内に来館すれば、他講座購入のものでも直接利用できるのである。現在対象誌は分館購入分98誌、講座購入分193誌、延利用人数2,142名である。

2階及び3階はカーペットタイル貼である。足ざわりもやわらかく、何よりも静かでまことに結構である。ただ、持ち込まれる砂ほこり、とりわけ雪道から入り込む水分の清掃が問題で、下駄箱とスリッパを用意しようかとも考えた。結局、利用者優先とし、重荷(履き替え)による登館拒否現象を避けるため、土足にふみ切った。雪は間もなくだが、月2回、ビル管理会社

の丁寧な清掃により、今のところ汚れは目立たない。

3階の貴重書庫には、前記新潟医学校当時受け入れた洋書、和装医書、医籍、本草書のほか、日本医学図書館協会の創始である第1回官立医科大学附属図書館協議会(昭和2年、新潟で開催)以後近年までの記録、写真等を納めてある。

IV. 設 備：費用と手数

旧館は50余年も使いこんだ建物で痛みが激しく、すき間風はいたるところから、事務室を襲う西陽は強烈

設 計 新 潟 大 学 施 設 部

株式会社 教育施設研究所

施 行 建 築 工 事 株式会社 福 田 組

電 気 工 事 株式会社 弘 電 社

衛生空調工事 株式会社 西原衛生工業所新潟支店

エレベーター 株式会社 日立製作所新潟営業所

工 業 着工 昭和56年7月16日~昭和57年3月23日竣工

構 造 鉄筋コンクリート造 3階建 塔屋1階

面 積 建築面積 1,036.92㎡ 延床面積 2,961.2㎡

主要設備 車椅子兼用エレベーター 電動式集密書架 正面階段及び光庭床面融雪用ロードヒーティング装置

工事費 総工費 515,510千円

各階・主要室別面積表

階	主 要 室	面 積	座席数	階	主 要 室	面 積	座席数
1 階	書 庫	341.00㎡		3 階	開 架 書 庫	544.00㎡	18
691.65㎡ (911.65)	第 二 書 庫	36.00			貴重図書室	37.00	3
	そ の 他	314.65			特別資料室	75.00	
	(電話交換室)	220.00		931.42㎡	視 聴 覚 室	58.00	30
2 階	一般閲覧室	511.00	110		会 議 室	38.00	16
	教官閲覧室	83.00	20		そ の 他	179.42	
	新聞閲覧兼 ロッカー室	29.00	3	屋 階	空調機械室	66.00	
1,016.13㎡	軽読書・喫煙室	25.00	10	102.00㎡	そ の 他	36.00	
	事務関係室	201.00			合 計	2,741.2 (2,961.2)	164
	そ の 他	167.13					

面積合計の()内は電話交換室を含む総延床面積。座席数の合計は視聴覚室、会議室を含まない。

平面図 1:300

2F 1,016.13㎡

- 201 正面階段
- 202 玄関
- 203 ホール
- 204 新聞閲覧室兼ロッカー室
- 205 階段
- 206 エレベーター
- 207 カウンター
- 208 教官閲覧室
- 209 新刊雑誌コーナー
- 210 開架閲覧室
- 211 非常階段
- 212 喫煙室
- 213 女子便所
- 214 男子便所
- 215 ダクト
- 216 情報管理室
- 217 分館長室
- 218 事務室

1F 911.65㎡ (内電話交換室 220㎡)

- 101 正面階段
- 102 車椅子用スロープ
- 103 通用口
- 104 受付
- 105 ホール
- 106 階段
- 107 エレベーター
- 108 書庫
- 109 非常口・非常階段
- 110 ダクト
- 111 倉庫
- 112 機械室
- 113 電気室
- 114 男子便所
- 115 女子便所
- 116 身障者用便所
- 117 荷解室
- 118 宿直室
- 119 男子更衣室
- 120 女子更衣室
- 121 第2書庫
- 122 旭町地区電話交換室

3F 931.42㎡

- 301 会議室
- 302 視聴覚室
- 303 貴重図書室
- 304 特別資料室
- 305 光 庭
- 306 開架書庫
- 307 非常階段
- 308 ダクト
- 309 エレベーター
- 310 階 段
- 311 文書庫
- 312 休憩室
- 313 湯沸室
- 314 男子便所
- 315 女子便所

で、まことに住みにくいところであった。それが今度
は最新の鉄筋コンクリート造り、冷暖房完備となった
のだから、地獄から天国へ移ったような快適さである。
省エネのためできるだけ控えたが、この夏20日余り冷
房のスイッチを入れた。そのせいか、8月の入館者数
は昨年の約8倍にのぼった。しかし、その費用は予想
をはるかに超えてしまった。暖房経費がどれ程になる
ものか、気がかりである。

光熱、冷暖房費が心配で、3階書庫は時間外開館時
には消灯することにした。利用申し出があつたら点
灯するのである。

1階面積の24%を占める電話交換室は、玄関を別に
し、内部も完全に仕切られている。光熱費の支出はも
ちろん別建てだが、ラインがいっしょなので、交換室
分を算定するために毎月、電気、ガス、水道の参考メー
ターを検針しなければならないのが、いささか厄介な
ことである。

新館は北向きに造られた。キャンパス中央道路に面
するということであつたものと思うが、前記の激
しい季節風の通り道に当っており、間近に迫った冬の
到来が恐ろしい。かよわい(?)女子学生が、冬の嵐に吹

き飛ばされはしないかと気がかりで、雪囲いの取り付
けを検討しているところである。これも又、お金のか
かることである。

V. お わ り に

悲願であつたとも言える新館が、5億を超えるお金
をかけて、いま私たちのものになった。つい最近まで
の、気持ちをいじけさせるほどの悪い環境が、経費が
問題だとは言えども、これ程まで快適に住めるよう
になったのだから、手数料がかかるのどのとわがままを
言えるものではない。

それよりむしろ、今までやれなかったこと、新たに
やらねばならぬことをどう実現するか、真剣に考えな
ければならない。

業務電算化は雑誌管理を目指してようやく検討に
入ったところだし(中央図書館の貸出業務電算化は、
58年4月実施予定)、JOISに代表されるオンライン情
報検索は、来年度にはぜひ端末機をといた状況で、
先行他館に大きく水をあけられているのが、当館の実
態である。

また、学術雑誌の重複購入を整理し、かつ図書館に集中して効率的利用をはかることも重要な課題である。

学内全般、特に雑誌の重複整理、集中、共同利用につき旭町地区各部局の理解と協力を得なければならない。

館員一同負わされた任務の重大さを自覚し、いっそ

う職務に精励しなければならないが、他館にあげられた差を詰めることにあせらず、地道に、できる限りのサービス向上に努めたいと考えている。

機能的にも、設備の点でも何一つ自慢できるものを持たないで、原稿依頼にお答えしたことを悔み、恥かしく思う次第である。

お知らせ

編集協力委員について

「医学図書館」に全国の医学図書館の活動をよりよく反映させるため、編集に種々のご協力をいただく編集協力委員制度を設けました。編集に関しましては、これらの編集協力委員の皆様を通して、あるいは従来どおり直接に編集委員、事務局に何なりとご連絡下さい。なお編集協力委員は、関東地区を除く各地区評議館を通しまして、下記の方々にお願いいたしました。

坪田充弘氏 (北海道大学医学部図書館)
米沢 彰氏 (東北大学医学図書館)
鈴木孝昌氏 (松本歯科大学図書館)
高橋律子氏 (名古屋大学附属図書館医学部分館)
光斎重治氏 (大阪市立大学附属図書館医学部分館)

岡村孝紀氏 (岡山大学附属図書館医学部分館)
末田 博氏 (長崎大学附属図書館医学部分館)

「医学図書館」編集委員会